

数字で見る多摩川

～多摩川にはいろいろな数字があります～

昔から好き、
これからも好き。



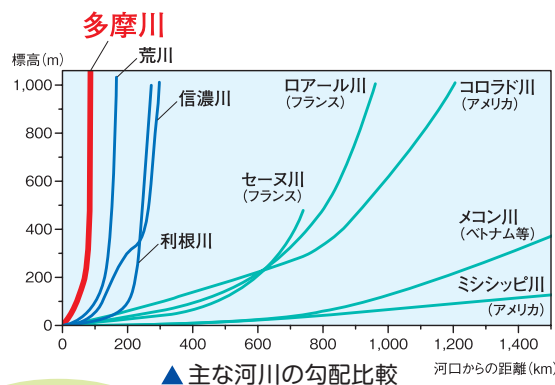
多摩川の長さで、源流は山梨県笠取山、河口は羽田沖の東京湾までの長さです。全国109ある1級河川のうち、25番目の長さです。

多摩川の水源地の笠取山の標高になります。東京スカイツリー約3個分の高さがあります。



▲多摩川最初の流れ (笠取山)

他の河川と比べて急な河川です。



れきし!

1918年

大正7(1918)年に多摩川は国が直接工事を行う河川に指定されました。

多摩川治水記念碑▶



めんせき!

約1,240km²

多摩川は山梨・東京・神奈川を流れる一級河川で、流域面積は約1,240km²あります。



だいすき!
約1,800万人

多摩川を1年間に利用している人の数です。日本人の約7人に1人が利用している計算になります。

みどり!

約60%

現在、流域面積の約60%が森林です。多摩川は都市を流れていますが、森林が多く自然豊かな川です。 ▲御岳渓谷(青梅市)



<らす!

約380万人

多摩川流域の中下流では都市化が進み、流域で暮らす人たちの人数は約380万人です。

アミガサ事件

~多摩川に一刻も早く堤防を~

昔から好き、
これからも好き。



1

多摩川って癒されるわ~
雄大に流れていくところが
大好き

おとなしく見える多摩川も
大雨が降る度に、はん濫・洪水を起こす
「あばれ川」だったんだよ

2

明治40年、43年、
大正2年と

下流部でもとても
大きな被害が
相次いで起きたんだ

六郷橋がぐにやぐにや
だわ……

3

そんなに
洪水が起きたんじゃ、
みんな生活
できないじゃない

そのとおり。
困った住民たちが
大正3年に、
「多摩川に一刻も早く
堤防を」と、

みんな
編んだ笠を
かぶっているわ。
だから
アミガサ事件
って言うのね

神奈川県庁に
押し寄せた
「アミガサ事件」が
起きたんだ

4

丸子橋
有吉堤
ガス橋
多摩川
多摩川大橋
六郷橋

ひとびと おも
人々の想いをうけて
有吉県知事が
道路を堤防として
整備したんだ

▲有吉神奈川県知事

その尽力に感謝し、
大正5年に完成した
堤防を「有吉堤」と
命名したんだ

5

アミガサ事件の影響が各地に広がって、
大正7(1918)年から始まる多摩川改修
工事へとつながっていくんだ

先人たちの思いや
行動があったから、
私はこうやって
寝転んでいられるのね

大正7(1918)年から始まる 多摩川近代改修工事

～河口から二子橋の上流22kmの改修工事～

昔から好き、
これからも好き。



1

アミガサ事件のあと、多摩川はどうなるのかしら

大正7年に、国が多摩川の改修工事をすすめることが決まったんだ

2

こうして洪水被害が特にひどかった下流部22km、

河口から二子橋上流までの工事がはじまったんだ

3

大正9年から川を掘ったり、堤防を造ったり、

13年にも及ぶすごく大きな工事だったんだよ

こんな素敵な水門も、このとき造られたのね

▲川崎河港水門

▲六郷水門

4

工事では、東京ドーム6杯分の土砂をほったんだよ!

そんなに!?

工事にかかった費用は約1,100万円。今でいうと約58億円!!

造った堤防の長さは、約40kmなんだ。(両岸あわせて)

40kmってフルマラソンと同じくらいじゃない!

あざーい!!!

5

その後も現在まで多摩川改修は続けられているのね

① 多摩川改修工事(河口～二子橋) 大正7(1918)年～

② 多摩川上流工事(二子橋～日野橋) 昭和7(1932)年～

③ 高潮工事(河口～六郷橋) 昭和41(1966)年～

④ 多摩川上流工事(2)(日野橋～61.8km) 昭和44(1969)年～

⑤ 浅川改修(高幡橋～南浅川合流点) 昭和44(1969)年～

⑥ 大栗川改修(多摩川合流点～1.1km) 昭和47(1972)年～

⑦ 高規格堤防工事(河口～日野橋) 平成元(1989)年～



昭和49年9月、台風16号が多摩川を襲う

昭和49(1974)年9月1日、台風16号は関東地方に大雨を降らせていました。昼頃には雨量は300ミリを超え、午後1時ごろ二ヶ領宿河原堰の左岸の護岸が、2時ごろには堤防が崩れ始めます。夕方6時ごろには住民の避難が開始。夜8時には警戒水位を越え、そしてついに夜の8時半、全長80mにわたって堤防が決壊。水防団の努力もむなしく、洪水流は住宅地を浸食し、深夜に民家の流失が始まりました。



▲民家が濁流に流される様子

3日間計13回に及ぶ爆破

2日の早朝までに、洪水流は8棟の家を押し流していました。そして朝6時、濁流の進路を変えるため、二ヶ領宿河原堰の爆破が狛江市によって要請されます。午後2時半、第1回目の爆破。しかし、堰はビクともせず、堰がいかにか頑丈につくられていたのかを以後3日間、13回にわたった爆破によって皮肉にも証明してみせました。その間にも、次々と民家が濁流に飲み込まれていき、翌日の午後2時までに19棟が流されました。

堤防決壊260m、流出家屋19棟

6日夜7時ごろ、仮堤防工事終了。1日から24時間体制で行っていた牛杵や根固めブロックの投入、堤防の締め切り工事でした。夜12時、避難命令が解除され、堤防決壊260m、流出家屋19棟という結果を残して、ほぼ1週間にわたった狛江水害は一応のピリオドを打ちました。



▲決壊直後の多摩川



▲破堤した堰の仮堤防工事



▲多摩川決壊の碑

あの教訓を忘れないために

平成11(1999)年3月、生まれ変わった「二ヶ領宿河原堰」が完成。この水害の教訓を後世へ伝えるため「多摩川決壊の碑」も合わせて建立されました。

水がピンチ水資源開発

～東京砂漠と呼ばれる渇水が発生～

昔から好き、
これからも好き。



1

洗面台
つかうねー

はみがき
はみがきと

水出しばなしは
ダメだよ

NG

2

それはそうけど、
ちょっとくらいいいじゃない

渇水の大変さを
知らないからな～

今では取水制限
くらいまでだけど、
昔は「東京砂漠」って
呼ばれる大渇水が
発生していたんだ

3

ええ～!
多摩川の水は玉川上水とかで、
江戸の生活に広く利用されてたって
聞いたわ

玉川兄弟が
がんばったのよ

明治に入ると水が多く
使われるようになり、
一時、東京都の約8割を
多摩川の水が占める
ようになったんだ

4

そ、それに、多摩川上流の
奥多摩町に小河内ダムが
あるじゃない!

たしか昭和32年に
完成したはずよ

貯水量は
東京ドーム
150杯分よ

小河内ダム

ダムができたけど、
首都圏への産業と
人口の集中などで、
毎年のように
渇水が起こるよう
になってしまったんだ

応急給水

5

これは大変だわ

でも、今では断水まで
ならないじゃない

どうして
なのかしら?

実は、利根川・荒川
の水も東京の飲料水
として利用して
いるんだ。

現在東京都の水道用水に占める
多摩川の割合は2割程度と
なっているんだよ

埼玉県の水に
吉見浄水場
朝霞浄水場
朝霞水路
東京都の水に
秋ヶ瀬取水堰
大久保浄水場
埼玉県の水に
利根大堰
利根川
武蔵水路
荒川
はい氷機場

6

水を大切に、
節水に心がけるわ

Good

泡が舞う、悪臭が漂う

～高度経済成長期の公害～



1

みずがす 水が澄んでいて ざかな かげ み 魚の影も見えるね

いま すいしつが 改善された たまがわ 多摩川だけど、

しょうわ 昭和40年頃は しんごく 深刻な公害に なや 悩まされて いたんだよ

アユかしら? おいしいよね

2

昭和45 (1970) 年の多摩川 (出典:東京都環境局)

魚釣りしてるけど、食べるのかしら?

アワだらけ... これはきたない!!

3

とうじは、 たくさんの人や産業が とうきょうに集中するようになった時代で、

▲ 昭和43 (1968) 年 調布取水堰

▲ 平成30 (2018) 年 調布取水堰

おなじ場所なの? あわ 泡がなくなっているし、 なか 水の中も見えるくらい きれいになっているね!

わたしたちの家や工場から流れる汚れた水が多摩川を汚してしまったんだ。

4

左のグラフは数値が低いほど水質がきれいなことをあらわ表しているんだけど、 だいが 低くなってきているよね

▼ 多摩川上流 水再生センター (昭島市)

げすい 下水処理施設や、 しせつ 水質浄化施設を せいび 整備するとともに、 おお 多くの人が どりよく 努力してきたのね

5

大好きな多摩川を守るために、 私もできることをやろうっと

油を拭き取る 洗剤の使いすぎをやめる

お米のとぎ汁を水やりに

全国で初めて! 直接対話による環境整備

～市民と行政のパートナーシップ～

昔から好き、
これからも好き。



1

たまがわは、スポーツや散歩などたくさんの人に利用されているね

そうだね。多摩川には自然も多いんだ。魚や鳥もたくさんいるんだよ。だからこそ、スポーツをするグラウンドばかりにならないように、自然を守る場所も必要なんだ

2

でも、この2つを両立させることなんて、できるのかな?

それが多摩川ではできているんだよ。自然を大切にしている人や大学の先生たちが一緒に話合っって昭和50年代に「多摩川河川環境管理計画」を作ったんだ

3

だから、グラウンドや、自然観察ができる場所がわかれているのね

そう、この計画は多摩川を使う人は守らなきゃいけない計画なんだ

4

それから、平成13年に、「これからの多摩川の川づくりプラン※」を作るときにも、いろいろな人の声を聞いたんだよ

へえーでもどうやって?

※多摩川水系河川整備計画

5

そのプランの作成には、たくさんの市民や自治体の人たちが協力してくれたんだ。

市民は、自分たちが多摩川をよりよくするための意見を出したりしたんだ。

自治体は、市民に声をかけて、のべ、6200Kmを歩いたんだ! 1275人が多摩川を見て、意見をまとめたんだよ

▲市民からの意見発表

6

こうして関東で最初に作られた多摩川の河川整備計画は、関わった人たちの汗の結晶なんだ

だから、**壮大な社会実験**なんて呼ばれているのね!

▲ふれあい巡視(川歩き)の様子

7

その計画をつくった後は、何もしてないの?

とんでもない。
今も市民や自治体の人と一緒に**「いい多摩川づくり」**をしているよ。

多摩川流域懇談会は市民や自治体、京浜河川事務所で作った組織だけど、多摩川をもっと知ってもらうためのセミナーを開催しているんだよ

▲過去のセミナーの様子



2018年、多摩川改修は100年を迎えます

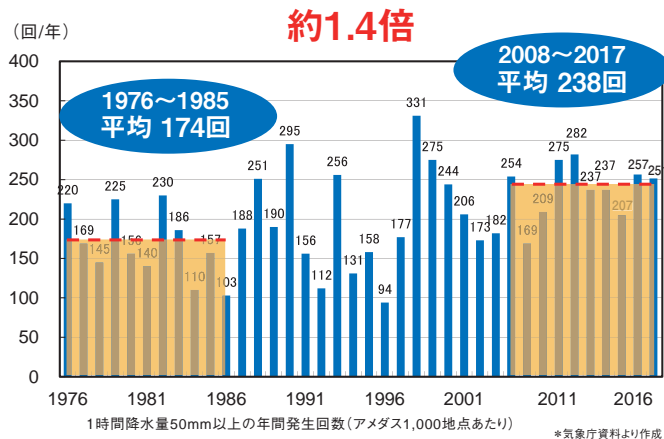
～次の100年に向けた多摩川改修～

昔から好き、
これからも好き。



近年増加する短時間豪雨

時間雨量50mmを超える短時間強雨が増加（約30年前の約1.4倍）



- 平成27年9月関東・東北豪雨では、『線状降水帯』が発生。栃木県日光市五十里観測所で、観測史上最大の24時間雨量551mmを記録しました。
- 鬼怒川では、常総市三坂町地先で堤防が決壊しました。はん濫した洪水が、広い範囲、そして、長い時間浸水したことで、逃げ遅れなどにより、約4300人の住民が孤立、救助されました。また、浸水がなくなるまでに10日もかかりました。

堤防などの能力には限界があり
防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの!

多摩川・鶴見川・相模川の大規模水害に対し
「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

ハード対策



▲高規格堤防整備

流域のみなさんをまもる
堤防の整備

整備前



整備後



▲下丸子地区高規格堤防

ソフト対策



▲危険箇所の点検



▲防災イベント

洪水の時にスムーズに避難できるよう、市民と一緒に危険な箇所の点検や防災のことをわかりやすく子どもたちに学んでもらうイベントを実施



多摩川年表

～明治以降の多摩川改修の歴史～

昔から好き、
これからも好き。



1907年(明治40)

8.24 台風により多摩川各所で堤防決壊

1910年(明治43)

8.10～11 台風によりほぼ全川にわたって破堤。川崎・大森方面では特に被害をうける

1914年(大正3)

9.16 御幸村(川崎市)とその周辺村民たち500余名がアミガサを着用し神奈川県庁に多摩川築堤を訴える(アミガサ事件)

1918年(大正7)

多摩川直轄改修工事開始

1919年(大正8)

4.10 多摩川の新堤防確定のために杭打ちが行われる

1923年(大正12)

9.1 関東大震災により多摩川左岸・右岸及び支川においても各所で堤防亀裂・沈下陥没
支川でも護岸堤防に被害

1947年(昭和22)

カスリーン台風により浸水被害98,691戸

1957年(昭和32)

“東京の水がめ”小河内ダムの完成

1961年(昭和36)

家庭排水等により水質汚濁が進み、各地で大量の泡が発生
水質悪化に伴い、川崎水道取水停止

1963年(昭和38)

「多摩川の自然をとりもどす会」発足
→多摩川の自然保護活動の始まり

1964年(昭和39)

東京オリンピック渇水

昭和40年代半ば

河川敷開発が進む中、自然地の減少への懸念から、多摩川の自然を守る市民運動が活発化

1973年(昭和48)

多摩川最後の「管の渡し」廃止

1974年(昭和49)

9.1～3 台風16号により多摩川左岸狛江市地先にて堤防決壊、人家19棟流出

1974年(昭和49)

東京オリンピックを契機に、国民の体力増進の場として河川敷の空間利用を私的占有から
一般開放し、市民の共有空間として利用するための事業が始まる

～1977年(昭和52)

多摩川の自然環境の保護に関する住民対話が始まる

1975年(昭和50)

全国の一級河川で河川水質ワースト5入り

1977年(昭和52)

全国の一級河川で河川水質ワースト5入り

～1980年(昭和55)

1980年(昭和55)

「多摩川河川環境管理計画」(河川空間管理計画)まとまる
→自然生態系、都市計画などの学識経験者による審議を重ね、さらに沿川自治体、
関係市民団体の意見や住民アンケートの結果を聞いた上で、全国に先駆けて策定

昭和50年代後半

流域において下水道整備が積極的に推進される

1991年(平成3)

多摩川が「魚ののぼりやすい川づくり推進モデル事業」のモデル河川に指定される

1996年(平成8)

提言書「パートナーシップではじめるいい川づくり」まとまる
→基本姿勢は川づくり、流域づくりに関わる市民(団体)、企業、自治体、河川管理者による
パートナーシップの構築

1998年(平成10)

12.19 「多摩川流域懇談会」、「多摩川市民フォーラム」設立
→市民意見の集約、提案する立場で「多摩川流域懇談会」に行政が自発的・主体的に参加する
とともに「市民アクション(川歩き+意見交換)」を実施

1999年(平成11)

「多摩川ふれあい巡視」実施(計29回)
→自治体主催、住民等と多摩川を見て歩き、多摩川に対する要望を集約
市民活動拠点「ニヶ領せせらぎ館」開館
多摩川流域懇談会を通じた、市民、河川管理者、流域自治体、学識経験者の協働による
多摩川水系河川整備計画の検討

2000年(平成12)

12.19 「多摩川水系河川整備基本方針」策定

2001年(平成13)

「多摩川水系河川整備計画(直轄管理区間編)」策定

2006年(平成18)

多摩川で最初の河川防災ステーションである「大師河原河川防災ステーション」設置
→災害時には応急復旧の最前線基地となり、平常時は一部を多摩川の防災、環境、歴史、
文化に関する学習などの情報発信拠点として活用

2007年(平成19)

多摩川の全水質測定地点で環境基準値(水質)をクリア
台風9号により昭和57年以来の大洪水となり、ニヶ領宿河原堰の上流側護床工が被災

2011年(平成23)

東日本大震災により東北地方を中心にじんだな被害が発生。多摩川でも津波を観測

2014年(平成26)

調査開始以来、最多となる推定約520万尾の稚アユが遡上

2018年(平成30)

大正7年多摩川直轄改修工事開始から100年



▲水質悪化(調布取水堰)



▲東京オリンピック渇水時の街の様子



▲台風16号による決壊直後の多摩川(狛江地区)



▲共有空間として利用するための事業による野球場等の建設



▲「パートナーシップではじめるいい川づくり」



▲アユの遡上